

みんなが笑顔になるプロジェクト in Malawi

実践場所	茗溪学園中学校高等学校	実践者	関 寿子
対象	中学2年生(1クラス 40名)	時間数	5時間
担当教科	地理	実践教科	地理
ねらい	① マラウイの地理的情報を伝える。 ② みんなが笑顔になるプロジェクトを考える。 ③ 考えたプロジェクトを発表する。		
実践内容	プログラム		
	回	テーマ・ねらい	方法・内容 使用教材
	1	●マラウイの地理 ねらい:① マラウイの概要を知る ② 異文化理解	① 位置や面積、人口など基本情報の確認(生徒自身が調べる)。 ② 自然環境の確認 フォトランゲージの手法を用いて、マラウイという国を想像させる。 ③ 衣食住について ・主食の料理法の紹介など ④ マラウイの問題点を考える。
2 ～ 5	●みんなが笑顔になるプロジェクトの考案 ねらい: ① マラウイにあるものを利活用して、みんなが笑顔になる提案をする。 ② 国際理解教育(国際協力への理解)の一環として、今後日本は、どのように国際協力をしていくべきか、生徒に考えさせたい(自分たちの身の丈に合った協力方法を考えたり、社会貢献したりするには、まずは学ぶことが大切である)	① エネルギー班と産業班に分けテーマを設定し、班ごとに調べ学習を行い、発表をする。 ② マラウイだけでなく、どうやったら世界のみんなが笑顔で暮らせるのかを考えてもらいたい。	マラウイに関する図書 模造紙 発表用原稿 発表用ワークシート(別紙参照)
成果	マラウイの事を知り、マラウイの人々が笑顔になるようなプロジェクトを真剣に考え、提案した。真剣に他国の人々の事を考え、知恵を出し合ってプレゼンできた。		
課題	・今年度はパイロットクラスのみでの実施だったため、もっと広く行っていきたい。 ・産業班は食品の商品開発のみだったが、それ以外のものにも着目させていきたい。		
備考			

はじめに

マラウイ共和国は世界最貧国に数えられる。医師数も少なく、医療も未発達で平均寿命も先進国に比べると短い。電力不足で、停電が日常的に起こる。また外貨獲得の手段としての産業もほとんど発達しておらず、外貨不足から十分に物資が輸入できず、国内は大混乱に陥る。そのため、本研修の半年前まではガソリンが手に入らない状態であったと現地で説明を受けた。しかし、このように不安定な経済状況の中でも、マラウイ共和国で出会った人々は、みな笑顔で私たちを迎えてくれた。この笑顔が私にとっては大変印象的であり、心が温かくなった。

日本はマラウイに対して ODA で無償資金協力や技術提供（資源のない小国でありながら、日本の青年海外協力隊員が大変多く活動している）、円借款を行っている。その実績は大きく、マラウイ共和国内では日本の知名度は高い。そこで、日本が国としてマラウイ共和国への協力は継続しながら、もっと身近なことでできる国際協力はないのかと滞在中考えていた。

私は社会科の教師である。教科指導で国際協力を扱う際、必ず ODA と NGO について触れる。ODA は金額が大きく、国全体としては効果的な援助ができるが、必要とされる場所に届くよう、細かい対応を取ることが難しいことでも知られている。しかし NGO は現地ニーズに合わせた小規模な展開ができるが、財源が寄付などであるため、予算不足に陥りがちという問題を抱えているという話をする。そこで、両方の長短を理解し、何か私たちにできることはないかを生徒に考えさせたいと思った。そこで今回、研修に参加させていただき、私自身がマラウイ共和国での本物に触れ、現地でしかできない体験を多くさせていただいた経験や実際に見聞きした情報を生徒に伝え、日常的には考えることのない日本から遠く離れた国マラウイ共和国について理解を深め、ODA 的な側面からではなく、NGO 的な側面で現地根ざした小回りの利く協力について考えさせたいと思い、授業を計画した。授業実践は全 5 回で、マラウイをマクロ→ミクロで捉え、マラウイの人々の生活に根差した協力を考えられるよう、計画を立てた。

授業実践

【第 1 時】ここはどこでしょう？

ねらい：① マラウイ共和国について知り、この国の問題点を洗い出す。

② 笑顔にするプロジェクトの構想を練る。

[①のねらい達成のために]

現地で撮影した 7 枚の写真を生徒に見せた（別紙 1. パワーポイント資料参照）。フォトランゲージの手法を用いて、写真から読み取れる情報を自由に言い合いながら、クイズ形式で授業を進めた。写真は[A. 水田風景]→[B. 灌漑施設]→[C. 佐川急便のトラック]→[D. シレ川で見たカバ]→[E. 日本語で社名の入ったトラック]→[F. 英語の道路標識]→[G. どこまでも続く広大な大地]の順で紹介した。

写真 A を見るとすぐに生徒は「日本だ！」「阿見町でみた」「おれの家そば、こんな感じ」などの発言がでた。それを受けて次に写真 B を見せた。生徒は口々に「やっぱり日本だ」「これ見たことある」「けど、写真に黒人が映っているよ」「じゃあ、日本じゃないよね」「ケニアだ、ケニアでしょう、先生」などとさらに活発に発言が増えた。

そこで、写真 C を見せると、「やっぱり日本じゃない」「でもこれ海外の写真なんでしょう」「なんで佐川急便のトラックがあるの」「じゃあ、やっぱり日本だよ」。

そこで写真 D を見せる。「これ野生ですか」「日本に野生のカバはいないでしょう」「アフリカだよ、やっぱり」「ケニア？南アフリカ？」、と生徒がアフリカを意識し始めたところで写真 E を見せた。すると「なんでアフリカに日本語のトラックがあるの？」「やっぱ、日本じゃない？」「まさか。ここはアフリカでしょ、ケニアだよ」と口々に言う。そこで写真 F を見せると「英語がたくさん書いてある」「通りの名前じゃない？」「でもなんで英語なんだよ、アフリカなのに」「イギリスと関係があるんじゃない」とさらに想像を働かせていた。そして最後に写真 G をみせると「やっぱアフリカだ」「広いね」「でも国はどこだろう」「先生、ケニアじゃないの？」と繰り返された。

そこで「ケニアは写真の国に渡航の際、乗り換えのために立ち寄ったが、ケニアではない」と伝えると、「じゃあどこなんだ？」と。そこでマラウイへ渡航し、そこで学んできたことを伝えると、生徒は一斉に地図帳でどこにある？と探し始めた。

[②のねらい達成のために]

私が夏にマラウイ共和国へ JICA の教員海外研修で渡航したことを伝えた。さらに写真を見せながら、この国の現状を伝えた（別紙 2. パワーポイント資料参照）。最後のスライドで問題提起した。地球とともに生活する仲間として、この国のために何かできることはないかを考えてみよう、と投げかけ「みんなが笑顔になるプロジェクト in Malawi」として 6 つのテーマを示した。生徒には生活班で調べて考え、模造紙にまとめる作業をするよう指示を出した（別紙 3. 調べ学習用ワークシート参照）。

【第 2～4 時】

ねらい： 各班で決めたテーマについて調べて模造紙にまとめよう。

図書館司書教諭にご協力いただき、3 時間の調べ学習を実施した。まずはマラウイってどんなところなのか？雨は多いのか？気温は？主食はトウモロコシや米だけど、いったいどんな種類のものを栽培しているのかなど、生徒がテーマに沿って班ごとに役割分担を決めて下調べに取り掛かった。インターネットなどでは降水量が多いことなどを知ることができるが、理科年表では測定されておらず、知ることができないなど、調べ学習を進めるにあたって生徒は苦労の連続であったが、司書教諭に協力していただき、知りたい情報を手に入れることも学べたようである。また、模造紙にまとめる際に必ず「このプロジェクトの目的」を明記するよう指導した。目的を達成するためにどのような情報が必要で、何を探せばその情報が手に入るのかなどを考えさせるために実施した。そして発表用原稿の作成を行った（別紙 4 参照）。

【第 5 時】

- ねらい： ① まとめた内容をきちんと伝えよう。
② 友達の発表を聞いて質問しよう。
③ 発表の審査をしよう。
④ 自分たちにできる国際協力は何か？考えよう。

以下の通り、授業計画をし、公開授業を実施した。

第5時 授業計画(公開授業)

時間	学習内容	指導上の留意点
導入 (5分)	◎マラウイ(自然・人文環境)について	・写真を見せたり、現物を見せたりしながら、生徒にマラウイについて思い出させる。
展開 (30分)	◎「みんなが笑顔になるようなプロジェクトin Malawi」と題して、班ごとに提案を発表する(各班で調べたことや考えたことなどの情報を共有する)。 ◎発表を聞いて疑問に感じた点を質問したり、発表の内容を審査したりする。 1. エネルギー班 ① 水力発電 ② バイオマス発電 2. 産業班 ③ 米 ④ とうもろこし ⑤ 淡水魚 ⑥ バオバブ	・生徒がスムーズに発表できるように促す。
まとめ (15分)	◎みんなが笑顔になるために必要なものとはいったい何か？ (お金？技術？それだけで十分かな？) ◎国際協力は大変で難しい?? 君たちがまずやることはなんだろう？	・お金→施設建設→雇用の増加→施設活用→豊かな生活→お金のサイクルが豊かさを生むことに気付かせたい。それと同時に、施設建設や商品開発には知識が必要不可欠であり教育が非常に大切であるということにも気づかせたい。 ・「風を捕まえた少年」を紹介し、学ぶことについて考えさせたい。 ・マラウイに限らず、発展途上国では今、何が必要なのか。また、私たちはどう行動することが大切なのかを考えさせたい。 ・「知は力なり」。大金がなくてもできる国際協力。それは確かな知識を身に着けることから始まる。中学生の彼らは事実を学び、そして考え、遠くの国の人々へ思いを馳せることができ、これが第一歩であることを伝えたい。

[指導上の留意点]

生徒の活動がメインとなるように、発表の時間を多くとった。また来場者や生徒に発表の評価をしてもらい、どの提案がよかったか、よくなかった点はどのようなところかを記入してもらった（別紙5、実物大は資料欄に添付）。

別紙5【発表評価シート（来場者用）】

生徒の発表を聞いて、評価できる点、再検討すべき点（改善点）など、ひと章評価との数評価（10点満点）をお願いします。いただいた評価は後日、この授業の振り返りに使用させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

評議員氏名： _____

	評価できる点	再検討すべき点	評価
水力発電			
バイオマス発電			
家			
トウモロコシ			
沼水魚			
バオバブ			

【発表の評価をしよう（生徒用）】

2年ひ組 組員名： _____

みんなの発表を聞いて、よかった点、よくなかった点について、ひと章評価との数評価（10点満点）をしましょう。この評価は後日、授業の振り返りで使います。

	評価できる点	よくなかった点	評価
水力発電			
バイオマス発電			
家			
トウモロコシ			
沼水魚			
バオバブ			



授業の様子



プロジェクト提案「ばおばぶ in すまいる」

[本時を振り返って]

発表はどの班も工夫されていて、生徒の発想力に感心させられた。また、質疑応答の際にも産業が成り立ってこそエネルギーが活用できるようになること、お金がないとやはり開発は難しいことなど、現実に即した発表ができていたことが評価に値する。今回、産業班は食品の開発がほとんどであったが、産業は食品に限らずさまざまな分野で開発が可能であるため、次年度以降はさらに違った分野での開発がされるよう、促していきたいと感じた。

発表の中で、1つの班が商品開発まで至らなかった（バオバブ班）。バオバブがさまざまなものに使われていることを調べ上げたが、日本では身近ではなかったためにどんなものをつくれればマラウイの人々が笑顔になれるのかわからなかったからだという。そこで、マラウイの人と私たち日本人が協力して商品を開発していけば、マラウイの人にとって良いものが開発できるのではないかと発表を締めくくった。このような発想ができることが、もしかしたら国際協力の第一歩なのかもしれないと感じた。

所感

帰国後にまとまった時間が取れず、じっくりマラウイについて扱う機会に恵まれなかった。そこで12月に入ってから本格的に扱い始めたのだが、生徒にとってマラウイ共和国という国自体、全く身近ではないため、イメージすら持つことが困難であったようだ。写真を見せたり、発問したりすると「アフリカ」や「黒人」というキーワードは出てくるが、そこから連想される国は「ケニア」しか出てこなかったほどである。そこで見かねてヒントを出しても「南アフリカ共和国」と回答するのが精一杯のようであった。マラウイは日本から遠く離れた国であり、特に資源に恵まれているわけでもなく、貿易面での結び付きも弱い。したがって授業でもこの国を扱うことはほとんどなく、正確にその国について伝えるには多くの時間を要することが分かった。

その一方、日本と似た米食文化もあることから、つぶさに見ていけば、共通点を見出すことができるであろうし、共通点があれば生徒に興味を持たせることができる。したがって授業で扱う国としての可能性も感じる。

授業で扱って気づいたことは、未知の国の現状を知った時の生徒の反応である。目を見張るものがあった。自身では行くことができない国へ渡航し、その情報を授業で紹介することは大変有意義であり、生徒の世界観を広げる一助となることが分かった。授業を受ける生徒は目が輝いており、通常の授業では見せない豊かな表情が観察できたことが収穫の一つである。また、これらの情報を得て、一人でも多くの生徒が国際協力に関心を持つきっかけができたり、また遠い国へと思いを馳せ、いつかは行ってみたいと思ってもらえたりすることが、社会科の教員としての私の役目であると考えている。したがってこの経験は、私にとっても有意義なものであったと同時に、生徒の視野を広げるきっかけとしても大変有益であったと確信している。

成果と課題

今回、授業対象学年を中学2年生としたため、彼らができる国際協力について考えさせたいと思い授業を組み立てた。彼らは私の視察したマラウイの情報に興味を示し、積極的に情報を得ようと活動した。また自分たちにできる国際協力（マラウイの人々を笑顔にするためにできることを考える）ことを考える取り組みを図書館司書と協力して行えたため、的確な資料提示をしてもらったり、インターネットサイトを紹介してもらったりと、生徒が調べ学習をスムーズに行える環境が整っていたからこそ実施可能であったといえる。ただ、今年度はパイロットクラスとして1クラスのみでの実施だったため、本当にこの手法でよかったのかは来年度以降検討の余地がある。そこで来年度以降は実施クラスを拡大し、その有効性を確かめたい。また研修でマラウイ共和国のODAの実態を現地視察してきたので、それらの内容などを盛り込んで国際協力を考えるきっかけを高校生に与えていける授業計画も検討したい。

資料

別紙1 写真から推測する



マラウイ共和国

この国の現状を知って
できることを提案しよう

基本情報

国土面積：
118,500km²

首都：リロングエ

人口：1363万人

通貨単位：
クワチャ
※1クワチャ=約30円

公用語：英語
チェワ語



地形 (プレート境界の湖：マラウイ湖)



衣服は？



主食は？

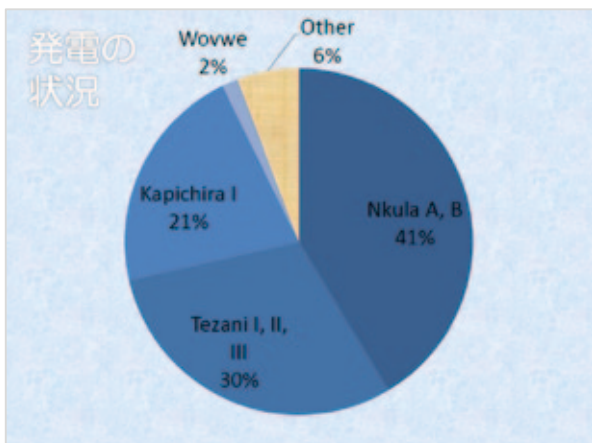


トウモロコシ栽培



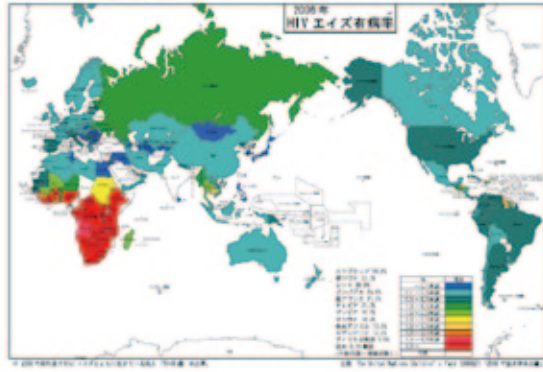
収穫後は？







HIVも蔓延している



医師数も少ない



国民の年齢中央値も低い



とても素敵な国



みんなが笑顔になれるように

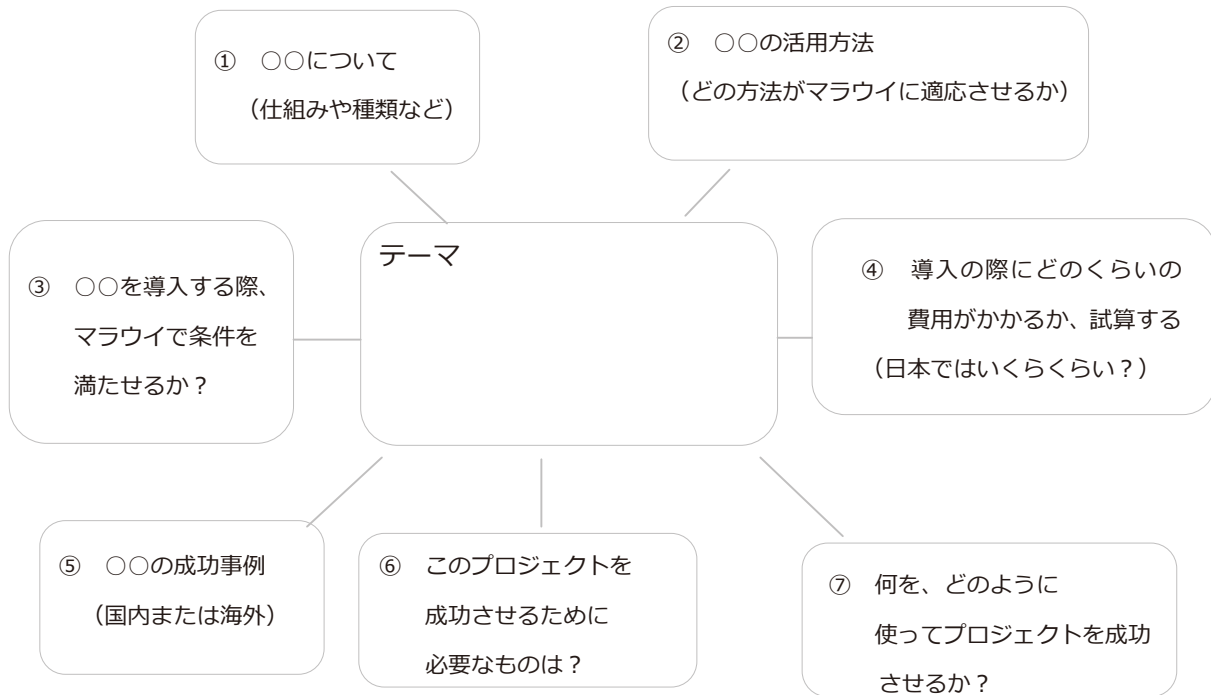
- 自分たちにできることを提案しよう！
「マラウイにあるものを利用・活用する」
ことが条件
- エネルギー班（2つ）
小規模水力（太陽光と比較して）
バイオマス（風力と比較して）
- 産業班（4つ）
トウモロコシ 米 淡水魚 パオバブ
→自分たちで続けられる仕事を（商品開発）

別紙 3. 「みんなが笑顔になるプロジェクト in Malawi」 (エネルギー班用ワークシート)

1. プロジェクト名

2. プロジェクトの目的：

3. つながりを考えよう



※ 上記以外に調べるにあたって必要なことが出てきたら、書き出してみよう。(担当者も決めよう)

4. マラウイ共和国のさまざまな事情について (現地聞き取り調査の結果より))

- ・水力発電に頼る国である (総発電量の 90%以上)
- ・国民の約 10% (資料によっては 2~3%というものもある) しか電力が供給されていない。
- ・家庭では薪 (木炭) を使い、煮炊きしているようである。
- ・トウモロコシや米を主食としている。
- ・ヤギを飼っている家が多い。
- ・ごみ処理場がない。
- ・教員 1 か月の給与は、5000 クワチャ (日本円で 15,000 円) 程度
- …その他、知りたいことがあれば個別に聞きに来てください。

5. 3 で選んだ①～⑦（6 人班であれば⑥と⑦は同じ人が担当）について、調べた内容を記入しましょう。

使いたい写真や図などがあったら、書き出しておきましょう。（カラー印刷やコピーをする場合は、相談してください。）

6. 最終的には模造紙 1 枚にまとめます。レイアウトを考えましょう。←内容もさることながら、見た目も重視します。（①の担当者が中心となって決めます。アイデアは全員で！！）

【模造紙に見立てて、レイアウトしてみましょう】

別紙4 「みんなが笑顔になるプロジェクト in Malawi」 発表用ワークシート

[手順 1] 発表の準備をしよう。聞く人に順序よく伝えられるよう、まず情報の整理を行う。

・プロジェクト名

--

・プロジェクトの目的

・プロジェクトを達成するために調べたこと（個人テーマ） 前回配布資料「3. つながりを考えよう」より

・発表の順番を考える（個人が調べたことをどのように発表するとよりよく伝わるか）

・役割分担を確認しよう（原稿作成者と発表者は重なるように） 発表は全員でするのも可。

原稿作成者：

当日の発表者：

模造紙まとめる班（複数）：

不足している情報を調べる何でも屋（責任重大 1 人）：

別紙5【発表評価シート（来場者用）】

生徒の発表を聞いて、評価できる点、再検討すべき点（改善点）など、一言評価と点数評価（10点満点）をお願いします。いただいた評価は後日、この授業の振り返りに使用させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

評価者氏名： _____

	評価できる点	再検討すべき点	評価
水力発電			
バイオマス発電			
米			
トウモロコシ			
淡水魚			
バオバブ			

【発表の評価をしよう（生徒用）】

2年D組 番氏名： _____

みんなの発表を聞いて、よかった点、よくなかった点について、一言評価と点数評価（10点満点）をしましょう。この評価は後日、授業の振り返りで使います。

	評価できる点	よくなかった点	評価
水力発電			
バイオマス発電			
米			
トウモロコシ			
淡水魚			
バオバブ			